

2 受療率

全国の受療率（人口10万対）は、「入院」960、「外来」5,658である。

(1) 性・年齢階級別

性別にみると、入院では「男」910、「女」1,007、外来では「男」4,971、「女」6,308となっており、年齢階級別にみると、入院では「65歳以上」2,512、「70歳以上」2,899、「75歳以上」3,568、外来では「65歳以上」10,044、「70歳以上」10,665、「75歳以上」11,166となっている（表4、統計表4）。

表4 性・年齢階級別みた受療率（人口10万対）

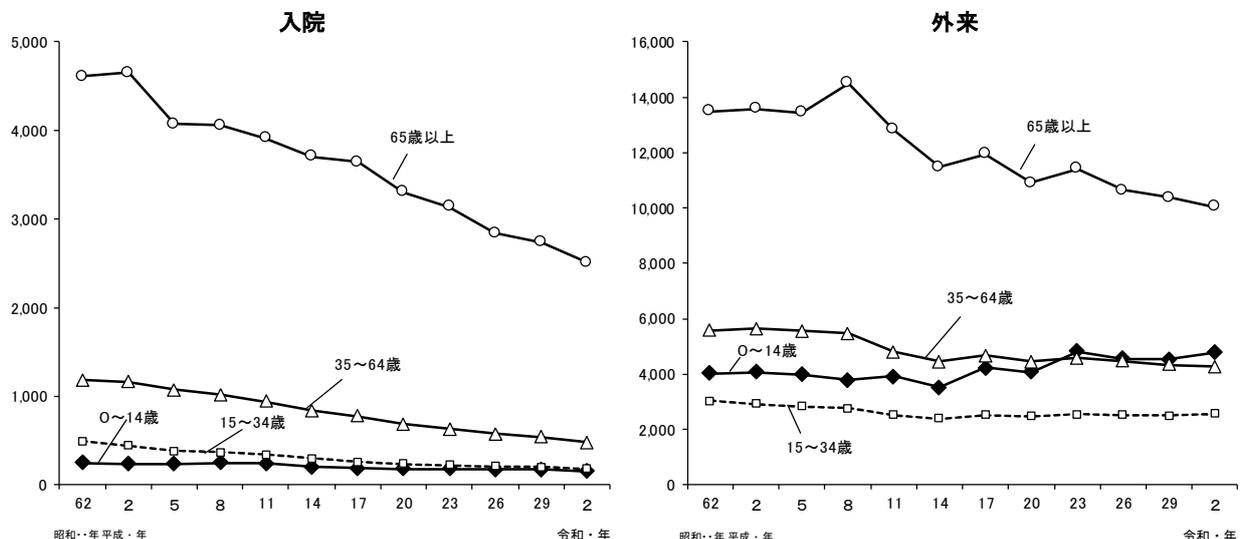
年齢階級	入 院			外 来		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総 数	960	910	1 007	5 658	4 971	6 308
0 歳	1 065	1 155	971	7 296	7 403	7 185
1 ~ 4	134	153	115	6 327	6 540	6 103
5 ~ 9	71	79	64	4 816	5 078	4 540
10 ~ 14	99	106	92	3 313	3 300	3 328
15 ~ 19	123	121	126	2 178	1 993	2 372
20 ~ 24	141	128	156	2 321	1 782	2 885
25 ~ 29	198	142	258	2 692	1 867	3 563
30 ~ 34	246	165	331	3 043	2 149	3 977
35 ~ 39	257	215	301	3 174	2 300	4 074
40 ~ 44	273	278	267	3 480	2 760	4 220
45 ~ 49	345	387	302	3 745	3 063	4 444
50 ~ 54	478	551	404	4 285	3 602	4 977
55 ~ 59	664	776	551	5 113	4 368	5 856
60 ~ 64	895	1 064	730	6 113	5 509	6 702
65 ~ 69	1 207	1 444	983	7 951	7 369	8 500
70 ~ 74	1 544	1 797	1 318	9 649	9 165	10 083
75 ~ 79	2 204	2 461	1 997	11 527	11 132	11 843
80 ~ 84	3 234	3 440	3 088	11 847	12 077	11 685
85 ~ 89	4 634	4 795	4 546	10 728	11 308	10 411
90歳以上	6 682	6 706	6 673	9 248	9 667	9 107
(再 掲)						
65歳以上	2 512	2 518	2 507	10 044	9 718	10 295
70歳以上	2 899	2 887	2 907	10 665	10 525	10 766
75歳以上	3 568	3 534	3 590	11 166	11 332	11 059

令和2年10月

注：総数には、年齢不詳を含む。

年齢階級別にみると、入院、外来ともに「65歳以上」が最も高くなっているが、年次推移では低下傾向となっている（図5、統計表4）。

図5 年齢階級別みた受療率（人口10万対）の年次推移



注：1）平成23年は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。
2）数値は、統計表4参照。

(2) 傷病分類別

傷病分類別にみると、入院では、高い順に「V 精神及び行動の障害」188、「IX 循環器系の疾患」157、「XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響」107となっている。外来では、「XI 消化器系の疾患」1,007、「XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」794、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」718となっている。(表5、統計表5)

表5 傷病分類別にみた受療率（人口10万対）

令和2年10月

傷病分類	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	960	910	1 007	5 658	4 971	6 308
I 感染症及び寄生虫症	13	13	13	103	96	110
結核 (再掲)	2	2	1	1	1	1
ウイルス性肝炎 (再掲)	0	0	0	7	7	8
II 新生物<腫瘍>	100	115	87	196	178	212
悪性新生物<腫瘍> (再掲)	89	106	74	144	148	141
胃の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	8	11	5	13	17	9
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	14	16	12	21	24	19
肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	4	5	2	3	5	2
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	13	17	8	15	19	11
乳房の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	4	0	8	28	1	53
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	4	4	5	14	8	20
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	24	21	26	343	312	373
糖尿病 (再掲)	12	12	12	170	199	143
脂質異常症 (再掲)	0	0	0	122	76	165
V 精神及び行動の障害	188	185	190	211	198	224
血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	20	17	23	11	6	15
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	113	112	114	40	42	38
気分[感情]障害（躁うつ病を含む） (再掲)	22	16	28	72	61	83
VI 神経系の疾患	100	88	111	131	115	147
アルツハイマー病 (再掲)	40	28	51	36	18	53
VII 眼及び付属器の疾患	8	7	9	237	192	279
VIII 耳及び乳様突起の疾患	2	1	2	76	68	83
IX 循環器系の疾患	157	151	163	652	609	693
高血圧性疾患 (再掲)	4	2	5	471	418	522
心疾患（高血圧性のものを除く） (再掲)	46	44	48	103	112	94
脳血管疾患 (再掲)	98	94	101	59	61	57
X 呼吸器系の疾患	59	69	50	371	363	379
肺炎 (再掲)	19	21	17	3	4	3
慢性閉塞性肺疾患 (再掲)	5	7	3	12	18	7
喘息 (再掲)	1	1	2	71	67	75
X I 消化器系の疾患	48	53	43	1 007	870	1 137
う蝕 (再掲)	0	0	0	231	208	252
歯肉炎及び歯周疾患 (再掲)	0	0	0	401	319	478
肝疾患 (再掲)	5	6	4	20	22	18
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	9	9	10	247	225	268
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	59	46	71	718	556	872
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	41	40	41	241	232	250
慢性腎臓病 (再掲)	18	21	16	99	134	65
X V 妊娠、分娩及び産じょく	11	-	22	10	-	20
X VI 周産期に発生した病態	5	6	4	3	3	2
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	4	5	4	11	10	11
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10	8	12	59	48	69
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	107	80	132	229	233	225
骨折 (再掲)	77	45	108	77	62	91
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8	6	10	794	650	930
X X II 特殊目的用コード	2	3	2	3	4	3

(3) 都道府県別

都道府県(患者住所地)別にみると、入院では、「高知」が1,897と最も高く、次いで「鹿児島」1,810、「長崎」1,679となっている。また、「神奈川」が654と最も低く、次いで「東京」669、「愛知」695となっている。

外来では、「香川」が6,729と最も高く、次いで「佐賀」6,599、「山形」6,353となっている。また、「沖縄」が4,393と最も低く、次いで「石川」4,656、「千葉」4,829となっている。(図6)

図6 都道府県(患者住所地)別にみた受療率(人口10万対)

令和2年10月

